

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 木暮 律子	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>1) 研究</p> <p>観光学を学ぶ留学生のための専門日本語教材作成に向けて、観光学専門用語の基礎調査を実施した。まず、昨年度収集した観光学専門用語から基本専門用語を抽出し、観光学を学ぶうえで核となる、より重要な用語を特定した。そのうえで、基本専門用語に含まれる漢字と語彙の難易度を日本語能力試験の出題基準に基づいて判定した。分析の結果、観光学専門用語は語彙の難易度が高く、カタカナを含む用語が多いという特徴があることが明らかになった。これらの研究成果は2012年8月31日に開催された留学生教育学会において報告した (http://www.jaise.org/nj-dlbox/17A22.pdf)。</p> <p>留学生が優先的に学習する必要のある用語を特定するためには、漢字や語彙の難易度だけでなく、用語の認知度や理解度についても調査する必要があると思われる。来年度はそうした点を考慮に入れ、留学生を対象により詳細な調査を行う予定である。そして、これらの調査結果をもとに、留学生のための専門日本語教材を作成したいと考えている。基本専門用語を効率的に学ぶことのできる実用的な教材を作成することにより、専門用語の習得における留学生の負担を軽減し、専門科目の理解を助けることができると思われる。来年度中には試用版教材を完成させ、留学生対象の日本語の授業のなかで実際に使用して改善が必要な点を探っていきたい。</p> <p>2) 教育</p> <p>講義や演習において学生主体の授業を展開し、学生の能動的な学びを引き出すことができた。以下に、本年度実施した教育上の主な取り組みを挙げる。</p> <p>①異文化間協働による大学紹介ポスターの作成 (専門基礎科目: 異文化コミュニケーション)</p> <p>講義で学んだことを活かす実践的な活動として、留学生と日本人学生によるグループワークを実施し、日本語弱者の立場に立った話し方・書き方のトレーニングを行った。最終課題では、文化背景の異なる人に本学の魅力をわかりやすく伝えるポスターを作成し、発表会を実施した。作成した16グループのポスターは、発表会において受講生が評価し合うだけでなく、教職員からも講評をいただき、作品集としてまとめ成果を残した。</p> <p>②地域の特色を活かした旅行プランの立案 (留学生対象科目: 日本の生活と文化)</p> <p>本講義は、地域政策学を学ぶ留学生が日本の地域的特色を理解し、専門科目を学ぶうえで基礎となる知識を習得することを目的としているが、単に日本に対する理解を深めるだけでなく、留学生独自の視点で日本の魅力を発見し、それを日本語で発信していきける力を身に付けることも目標としている。講義では日本を7つの地域に分け、各地域の生活や文化について学んだあと、さらにグループで1つの地域を詳細に調べ、地域の特色を活かした旅行プランを作成した。講義の最後には日本人学生にも参加してもらい、作成した旅行プランの発表会を実施して成果の発表と評価を行った。また、講義では発表後のフィードバックにも重点を置き、録音した口頭発表を聴きながら発表の自己評価と日本語の修正を行った。今後もこのような活動を取り入れることにより、多様な資料を読み取る力や聞き手を意識したプレゼンテーション技術の向上を図っていきたい。</p>	

③『留学生生活応援ブック』の作成（2年生対象：プレゼミ活動）

2年生を対象としたゼミ活動において、新入留学生のための大学生活ハンドブックを作成し、両学部部の1年生及び交換留学生に配布した。この冊子は大学生活に必要な日本語表現や高崎市の生活情報を、留学生にも理解しやすいやさしい日本語で解説したもので、ゼミ活動の一環として2009年より毎年作成している。今年度は昨年度版に新たに1項目を追加して内容を充実させ、生活編10項目、会話編20項目にまとめた。加筆修正を加えながら来年度以降も改訂版の作成を続け、留学生の大学生活をサポートしていきたい。また今後は学内だけでなく、高崎市に暮らす外国人住民のための生活ガイドブックの作成についても検討したいと考えている。

④グループ研究の実施（3年生対象：演習Iゼミナール活動）

3年次のゼミでは、毎年グループで研究に取り組んでおり、研究テーマの設定から調査の計画・実施、報告まで学生が主体的に進めている。今年度は、教育班と観光班の2つのグループに分かれ、伊勢崎市とみなかみ町でそれぞれ調査を実施した。これらの成果は、共同調査報告会として春休みのゼミ合宿で発表したほか、調査報告書を論文集にまとめ、調査にご協力いただいた関係機関に送付した。グループ研究を通して研究の一連の過程を経験することで、調査の進め方や論文の書き方を身に付け、4年次の卒業研究へとつなげている。今後もこのような学生主体による地域調査を実施し、多文化共生の地域づくりを実践的に学んでいく活動を継続していきたい。

2 その他の事項

・地域政策セミナー講師：第3回地域政策セミナー「観光まちづくりと地域－地域資源の保全・活用の本質に迫る－」において第4講義を担当し、「異文化間協働によるまちづくりの可能性」について講じた。異文化交流を通じた地域国際観光の先進事例を紹介しながら異文化間協働の必要性和可能性について論じ、観光まちづくりを進めるうえでの留意点を提示した。（2012年8月21日開催）

・群馬県日本語教育支援政策研究会運営委員：高崎市国際交流協会やNPO法人伊勢崎ボランティア協会と連携して、地域における日本語教育の実施、日本語学習教材の作成、日本語教育を担う人材の養成に取り組んだ。（平成24年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラム(A)）

・群馬県情報公開審議会委員：公文書提供制度の施行状況、交付媒体等の見直し、群馬県情報公開条例の施行状況について議論し、群馬県情報公開条例施行規則及び群馬県個人情報保護条例施行規則の改正を検討した。（2012年9月5日開催）

・教員免許状更新講習講師：「観光と異文化理解」（2012年8月11日実施）

・ラジオ高崎ラジオゼミナール出演：「多文化共生とコミュニケーション」というテーマで多言語・多文化化する日本社会と言葉の問題について解説し、やさしい日本語による情報提供のあり方を講じた。（2012年9月1日、8日放送）

・留学生日本語スピーチ大会審査員：群馬県留学生交流推進協議会主催の留学生日本語スピーチ大会において審査員を務め、スピーチの審査・講評を行った。（2012年11月4日開催）

・富岡市シルクレディ審査員：富岡シルクレディ2012選考会において審査委員長を務め、候補者の選考を行った。（2012年5月12日開催）